

花粉症の治療について



花粉症は、薬物による①内服薬 ②点鼻薬・点眼薬 ③注射 などの対症療法があります。今回は内服薬をとりあげます。

花粉症のお薬を予防的に内服することによって、症状をコントロールしやすくなります。毎年花粉症になる方は、早めの内服をお勧めします。

【抗ヒスタミン剤】

ヒスタミンには血管拡張、血管透過性亢進作用があります。ヒスタミンが受容体にくっつくことで症状が出ます。抗ヒスタミン剤はこのヒスタミンを拮抗してくしゃみや鼻水などのアレルギー症状を改善します。第1世代と言われるタベジール錠、ポラミン錠は眠気の副作用があります。第2世代と言われるお薬は、第1世代の眠気の副作用を改善し作用時間も長く1日1～2回服用で効果が出ます。市販薬として出ているものもあります。

主な（第2世代）薬剤：アレグラ、アレジオン、ジルテック、ザイザル、タリオン、クラリチン、アレロック

【ロイコトリエン受容体拮抗薬】

ロイコトリエンは鼻粘膜の炎症や鼻づまりを起こす要因です。気管支拡張作用もあり、喘息の治療にも使われます。医師処方のみで市販されていません。抗ヒスタミン剤と一緒に使われることが多いです。

主な薬剤：オノン、シングレア、モンテルカスト

【漢方薬】

主に「小青竜湯」という漢方薬があり、鼻水に効果があると言われています。眠気などの副作用はありません。（薬剤科長：佐藤 ゆかり）

編集後記

2024年元日から悲しいニュースばかりが日本中を駆け巡りました。被災地の方々は今もなお不安な日々を過ごしていると思うと心が痛みます。東日本大震災から今年で13年目を迎えます。今日に至るまで並々ならぬ日々を過ごされた方は少なくないでしょう。しかし、人々は立ち上がる事をこの東北に住む方々が証明してくれました。募金という形でしか協力できない事が歯がゆいですが、被災地の方々もいずれ立ち上がる事と信じています。

2024年、皆様に幸多く訪れますように。

（地域医療連携室：西本 明日香）



【発行元】  
仙台東脳神経外科病院

〒983-0821  
宮城県仙台市宮城野区岩切1丁目12番1号

Tel：022-255-7117（代表） Fax：022-255-7760

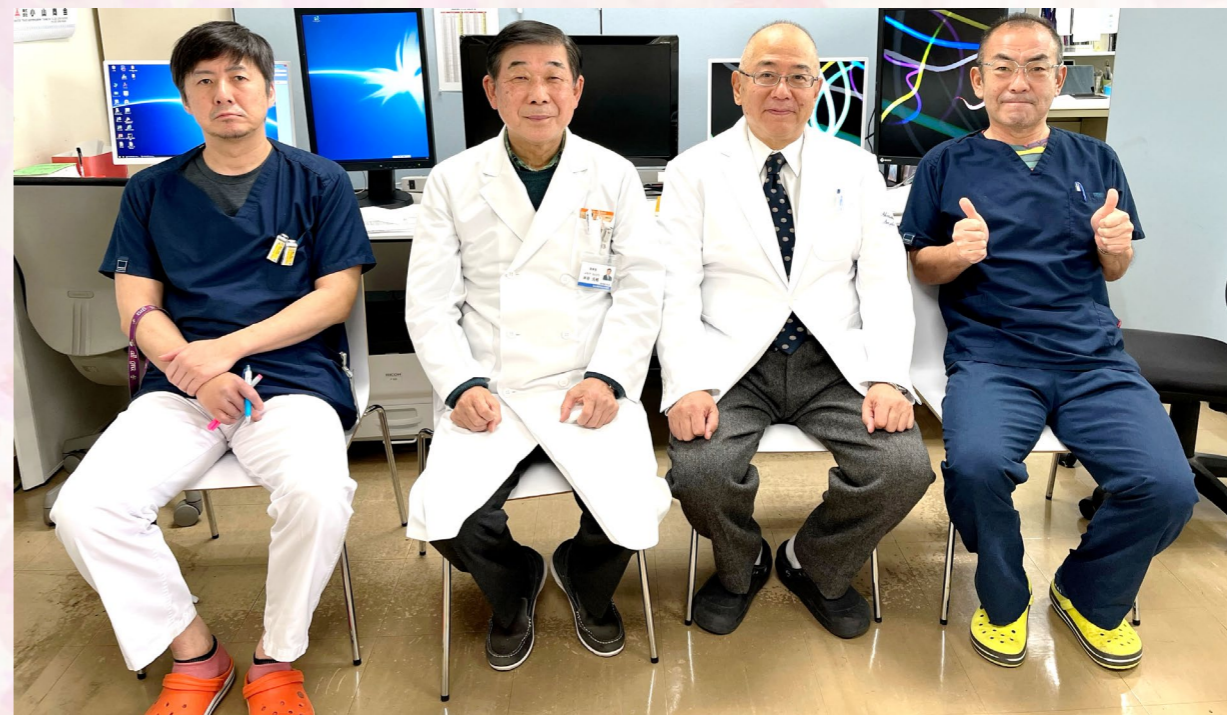


ホームページは  
こちらから

【関連病院】  
仙台リハビリテーション病院

〒981-3341  
宮城県富谷市成田1丁目3番1号

Tel：022-351-8118（代表） Fax：022-351-8126



新年あけましておめでとうございます。日頃より、当法人の運営に御協力頂いております各医療機関・関係機関の皆様には感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が5類に移行されましたが、どちらの医療機関等におかれましても陽性者への対応に苦慮されているのではないかと推察致します。とは言いつつ、緩和されたことによりお世話になっている皆様と情報交換を目的に訪問しやすい環境となりました。皆様より面談のお許しを頂けるならば、是非「足」で情報収集と当法人の運営について説明に伺わせていただきたいと思います。

当法人は脳神経および脊椎・脊髄関連疾患の急性期医療を担う仙台東脳神経外科病院と、同疾患の急性期から回復期・生活期まで一貫して担当する仙台リハビリテーション病院で構成されています。東脳外では、2021年4月より仙台医療センターから脊椎・脊髄手術を担当する脳神経外科医師が着任し、現在年間約100件の手術を実施しています。脊椎・脊髄手術は2013年6月より整形外科医師が始めていたこともあり、現在は両医師で年間200件超の手術件数となっております。

地域医療連携室では脊椎・脊髄手術を希望される患者様、脳神経疾患が疑われる患者様をよりスムーズにお受け入れできる仕組みを改めて構築していきたいと考え、院内ワーキンググループを立ち上げ取り組んでおります。引き続き患者さんのご紹介に関しまして連携を図りたく、お願い申し上げます。

地域医療連携室 副主任 社会福祉士 佐藤 誠之

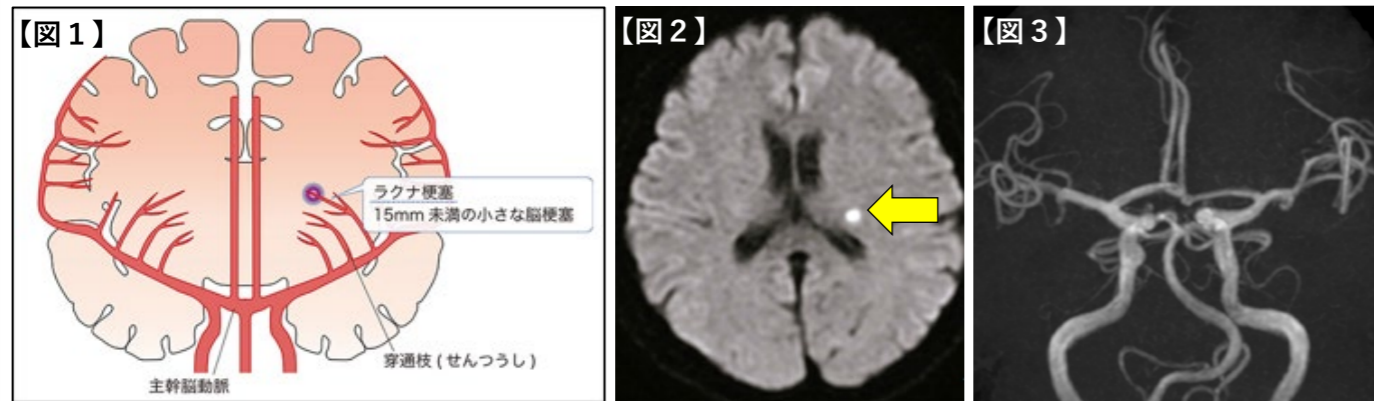


# ラクナ梗塞：どんな脳梗塞？予防するには？

ラクナ梗塞は、脳梗塞（ラクナ梗塞、アテローム血栓性脳梗塞、心原性脳塞栓症）の中では一番小さな脳梗塞で、大きさは直径1.5cm以下です。脳の中の細い動脈（穿通枝：直径0.1～0.3mm）の閉塞が原因です【図1】。小さな脳梗塞ですが、手足の運動や感覚など重要な部分に好発するため、呂律が回らない、半身麻痺などの症状を呈します。

診断はMRI検査が有用で、拡散強調画像（DWI）で新しい脳梗塞は白く見えます【図2】。

MRA（血管画像）で見える太い動脈（主幹動脈）には狭窄など異常は認めません（ラクナ梗塞の閉塞血管は細すぎて確認できません）【図3】。



ラクナ梗塞の治療は、点滴による薬物治療、リハビリ訓練、高気圧酸素治療などが行われます。通常2週間以上の入院が必要です。手術が必要になることはありません。

脳梗塞の中では、比較的若い年齢（40歳代～）で発症します。60歳未満ではラクナ梗塞が最多となります。（70歳代ではアテローム血栓性脳梗塞、80歳以上では心原性脳塞栓症が最多）

ラクナ梗塞の最も重大な原因は、**高血圧**です。

元気にバリバリ仕事をしている方でも、高血圧を放置していると、ラクナ梗塞を発症し大きな後遺症を残してしまうことがあります。また「一生くすりを飲み続ける」ことに抵抗を感じ、治療を中断してしまう方も少なくありません。血圧は高くても通常無症状であり、軽視されがちですが甘く見てはいけません。さらに恐ろしいことを言えば、脳出血の約8割は高血圧が原因であり、ラクナ梗塞の原因となる穿通枝の動脈硬化は脳出血の出血源にもなっています。

脳梗塞を予防するには、どうしたらいいのでしょうか。

<60歳未満の方>

ラクナ梗塞（や脳出血）を予防することは簡単です。高血圧をきちんと治療していれば、かなり予防できます。血圧を無視せず、ちょっと気にしながら、60歳まで元気にバリバリ働きましょう。

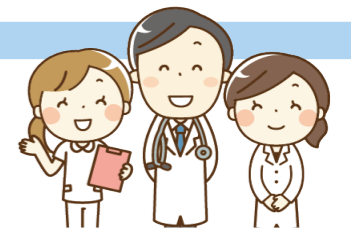
<60歳以上の方>

還暦を迎えると、高血圧以外の生活習慣病やいろいろな病気が加わるようになり、ラクナ梗塞以外の脳梗塞も起こりやすくなります。簡単な予防法はありませんが、そのあたりの事については次回お話をさせていただきます。

脳神経外科部長：渡部 憲昭（先月、還暦を迎えました）

## 部署紹介

栄養室・ME室・臨床検査室



**栄養室**は管理栄養士1名と事務1名、給食委託業者8名で業務を行っており、食事は1日200食前後を提供しています。入院中は患者様の状態にあった食事やアレルギー食、串刺し食等に対応し、毎月季節感のある行事食にカードを添えています。栄養管理においては入院する全ての患者様に栄養スクリーニングを行い、栄養状態を把握しながら食欲不振や摂取不良でお困りの患者様に直接お伺いして食事内容の調整を行っています。

栄養指導は入院、外来問わず予約制となっておりますので、希望される方はお気軽にご相談ください。（栄養室 管理栄養士：矢野 香代子）

**ME室**では、臨床工学技士（ME）2名で高気圧酸素治療装置や脊髄刺激療法（SCS）のプログラマーをはじめ、様々な医療機器がいつでも安全に使用できるよう管理しています。臨床工学技士とは、医師の指示のもとに生命維持管理装置の操作及び保守点検を行う事を業とする医療機器の専門医療職種です。

高気圧酸素治療とは、治療装置内に入り高気圧下にて血液中の酸素を増やし、全身にその酸素を送り届け、体中の低酸素状態の改善や浮腫などを軽減させる治療方法です。脊髄刺激療法とは、難治性慢性疼痛を和らげる効果のある治療方法です。どちらも医師の指示のもと操作・管理を行っています。これからも医療機器の安全管理と適正使用に向け、専門性を活かしチーム医療に貢献していきます。

（ME室 主任 臨床工学技士：大庭 玲子）

**臨床検査室**には4名の臨床検査技師と非常勤の助手1名が所属しています。通常の日勤業務に加え、夜間や休日も緊急検査のための呼び出しに対応しています。小さい検査室ですが、血液検査などの検体検査は測定機器も充実。緊急時は血液を採取してから15～25分で結果の報告が可能です。また、直接患者さんに行う生理検査は、脳波、誘発筋電図などの脳神経外科や整形外科に関わる検査に加え、心電図、ホルター心電図、心臓や頸動脈の超音波検査、血管年齢検査として知られる血圧脈波検査や、突発性難聴に対応する聴力検査、更に、手術中の検査まで多岐にわたる検査を行っています。コロナやインフルエンザの検査も臨床検査技師が検体を採取し検査をすることで、より正確で的確な検査を行っています。

病院の「何でも検査屋さん」の臨床検査技師。気軽に声をかけていただける検査室、が1つの目標でもあります。いつでも遠慮なくお声がけください！（臨床検査室 主任 臨床検査技師：小林 菜奈）



2023年11月 霜月膳



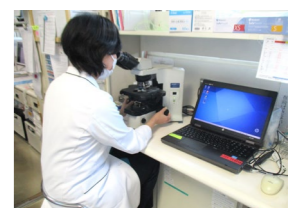
2023年12月 クリスマス



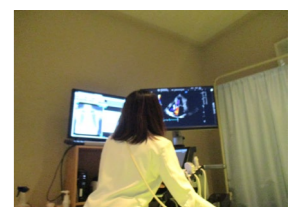
高気圧酸素治療装置



SCSプログラマー調整



検体検査（鏡検）



超音波検査